新たなことが続く技術™

計画を、一部分だけでも実際に試してみる。そこで分かったことから次を選びます。



まず、何なら試せるか

新しい提案を完成させる前に、
一項目を見せてみる。
一部分をつくり、
使ってみた手応えを確かめる。

実感を、次の手がかりへ

気づきや違和感から、
望む状態と次の行動を
具体的にしていきます。

2021年6月14日に発表。開発と実践は、現在もクライアントと続けています。

原発表：先が観え『新たなことが続く技術™』発売。挿絵は小さく試す場面の例です。

経験が 次の目的と行動を具体的にする

最初から完成形を描き切るより、試して得た実感を次の見立てへ生かします。

01 すぐ試せる行動を選ぶ

これまでやっていない取組みから、いま一部分だけ試す。

02 気づき・小さな達成感を得る

「わかった」「そうなんだ」という手応えを確かめる。

03 自発的に関わり 違和感に気づく

自分から関わる経験が、肌感覚のある気づきへつながる。

04 実感を伴う 望ましい状態を描く

違和感から望む状態を想像し、先に得られる報酬を予期する。

05 いまとの違いから 次の行動を選ぶ

具体的になった望む状態と現状を見比べ、手がかりを選ぶ。

原発表資料 p.2「新たなことが続くステップ」全5項目。

「できた」の経験から その先を想像する

報酬は金銭だけではなく、気づき、達成感、承認といった手応えも含みます。

慣れた仕事で得ていたもの

やり方が分かり、着手しやすい。
終えた直後に達成感が得られる。
周囲からの承認も得やすい。

新しい取組みに用意するもの

小さく試して、気づきを得る。
途中で分かったことを話せる。
次に望む状態を具体的に描く。

実際に試す ⟶ **望む状態が見える** → **先の手応えを予期する**

これが「報酬の先取」

当時の現場では、既存業務へ戻りやすい状況を捉え、実感のある望ましい状態を描くことを、取組みを続ける手がかりにしました。時間や支援の確保も一緒に整えます。

原発表資料 pp.1〜2の実践上の課題と説明／2026年10月25日改訂。

仕事の事実と 自分で試した経験をつなぐ

分析や計画でつかんだことを、実際の経験でさらに具体的にしていきます。

既にある需要に応える

事実と論理をもとに、
手順や分業を整え、
効率よく仕事を進める。

新しい取引・需要を創る

実際に一部分を試して、
相手の反応や使い心地を確かめ、
望む状態を具体的にする。

違和感は、望ましい状態と現状のずれ

同じ「目標と現状のギャップ」という言葉でも、経験に根ざした実感があると、何を変えたいのかを具体的に捉えられます。気になった一点を言葉や形にして、相手と確かめます。

実感・肌感覚を、調査や分析と行き来させる。

原発表資料 p.2のオペレーション・エクセレントと需要創造の説明を、役割の違いとして整理。

一部分を試し 次の相談へ持ち寄る

着手前に、時間・情報・変更してよい範囲・相談相手を確かめます。

試す一部分

例：提案の一項目／二つの相手を並べる／一部分を描く

試して分かったこと

実際に起きたことと、自分の気づき・手応えを分けて残す

気になった違い

いまと、実感をもって望む状態のどこが違うか

次に試す一歩

相手と相談し、対象を小さくする・支援を足すなどを選ぶ

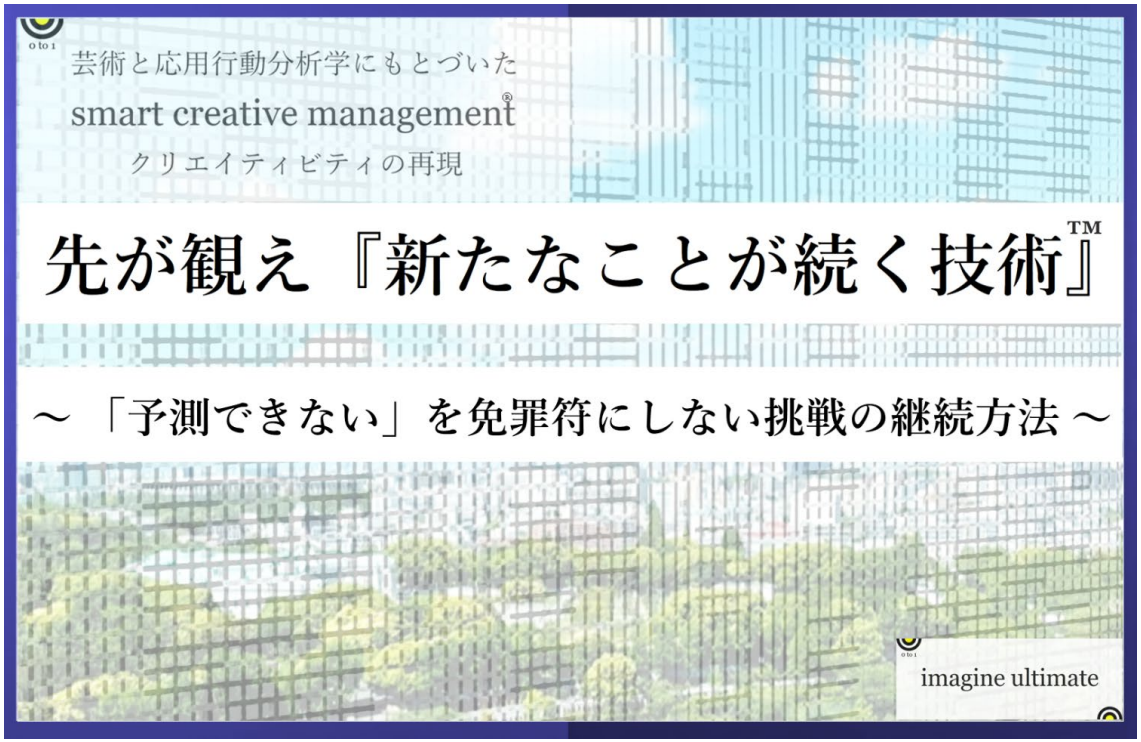
確かめ直す日：

相談する相手：

原発表の五段階を基にした活用欄。例は記入の手がかりです。

新しい取引を創る 実践から生まれた技術

芸術と応用行動分析学にもとづく需要創造のやり方を、仕事の習慣へつなぎます。



当時報告したこと

新たな取引を創るやり方を、組織の一部の人たちの行動習慣にしていく企業が、少しずつ増えていると報告しました。

実践から得た知見

経験で得る実感や違和感を、次の目的や打ち手を具体的にする手がかりにします。

当時の問題意識を生かし、開発と実践を現在も続けています。

原発表資料 pp.1～2。表紙中の言葉は原発表時の表記です。

需要創造の芸術と科学を 現場で確かめる

リクエスト株式会社｜代表取締役 甲畑 智康

二つの研究拠点

スマートクリエイティブマネジメント総合研究所
ABAオペレーションズ研究センター

需要創造型リーダーの開発®、自律型人材の育成、ロボットのマネジメント。人と組織の行動、創造力、人がマネジメントしやすいロボットのインターフェースを実験検証してきました。



原発表時の開発提供実績は約820社。従業員数30,000人の企業から年商30億円前後の中堅企業、上場準備直前のスタートアップまで。これは当時の事業実績の記録です。

スマートクリエイティブマネジメント®は弊社の登録商標です。

会社：requestgroup.jp　　相談：requestgroup.jp/request

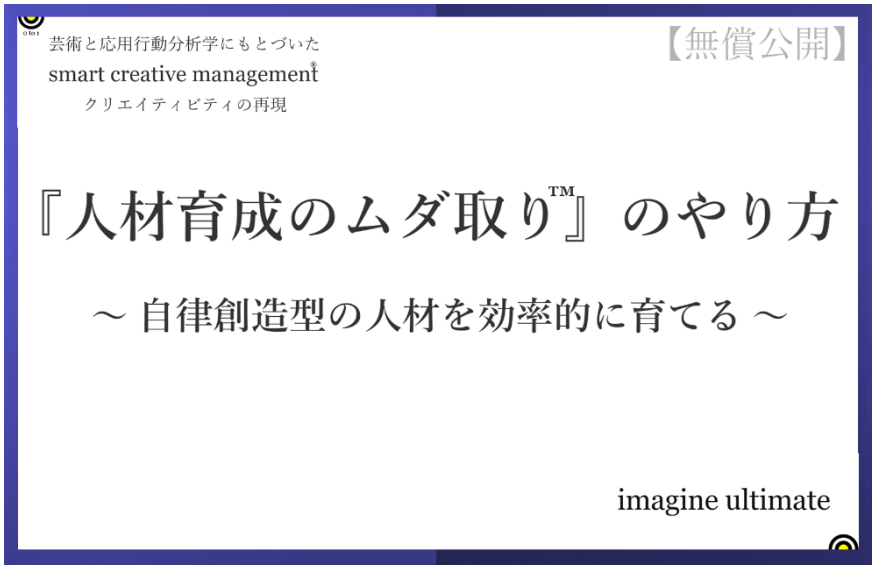
原発表資料 p.3／2026年10月25日改訂。連絡先 request@requestgroup.jp

実際の仕事で使う教材へ

当時案内していた教材と、現在のご相談先を掲載します。

関連リリース一覧を見る





原発表資料 p.3。案内先の公開内容は時点により変わります。

人材育成のムダ取り™

原発表では、実際にクライアント先で使用しているテキストを無償公開していることを案内しました。

教材案内：requestgroup.jp/method

代表者：requestgroup.jp/profile